

災害・テロと健康管理

邦人安全対策協議会
平成25年10月

在ケニア大使館 医務官 宮村治男

邦人と大使館の関わった災害・テロ事例

- 2001年、ハワイ沖えひめ丸事故
米国9/11多発テロ
- 2002年、バリ島爆破事件
- 2004年、インド洋地震・津波
- 2005年、米国ハリケーン、ロンドン爆破事件
- 2006年、トルコ邦人バス事故
- 2008年、ミャンマー・サイクロン、中国四川地震
- 2010年、ハイチ地震
- 2011年、東日本大震災、ニュージーランド地震
- 2012年、アフガニスタン日本大使館砲撃事件

アルジェリア邦人拘束事件

- 2013年1月13日、砂漠都市イナメナスの天然ガスプラントを、武装集団が襲い、邦人17名を含む多数の人質を拘束。
- アルジェリア軍が包囲・空爆開始し、テロ集団との交渉無しに攻撃を進め、発生後4日目にオペレーション終結。
- 邦人10名を含む外国人死者40名。



アルジェリア事件、医務官の仕事

1. 負傷者の治療
2. 救出された生存者のメンタル・ケア
3. 遺体確認作業
4. 関係者に対する医療、メンタル・ケア
5. 在留邦人に対する情報通達

中央アフリカの戦争



- 長年内戦が続き、邦人は殆ど退避した。
 - 2003年3月13日、反政府軍が首都バンギ総攻撃を開始。銃撃戦の末、政府軍は敗走。
 - 市内は無警察状態となり、略奪・強盗・放火が横行。
- 戦時よりも戦闘終了後に本当の恐怖が来る

中央アフリカの戦争(2)



- 大使館の女性館員は国外退避(ガボン)、男性大使館員は館内籠城。
- 邦人男性(40才、鉱山師)殴られ意識不明
→ 輸液路を確保して仏軍機でガボンに移送

大使館籠城経験

- 首都騒乱状態の1週間、館員は館内籠城
- 断水・停電・ネット不通・電話不通が続く
- 絶え間ない銃声、流弾に注意、窓に毛布
- 上司への不満・仲間同士の不和に注意
- 少年兵が一番怖い



籠城体験の教訓

- 処分すべき物は処分
「秘」書類、個人情報などは焼却
- 外出時は国旗(日の丸)が役立つ
- 非常脱出用に旅券と現金は肌身離さず所持
- 食料の備蓄が安心感を保証した
- 身の安全が何よりも大切
- PTSDは誰にも起こらず



災害・テロにおける医療

- 現実には救急蘇生法が役立つケースは殆ど無い
- 出血点は圧迫して止血
- 失血→心肺停止に対する心臓マッサージは意味がない
- 当事者(被害者)と関係者(家族および応援チーム)のメンタル・ヘルスの維持が大切



遺体の確認作業

- 身長計測・外傷チェック・指紋採取
- 容貌・身体特徴の確認
- 歯科所見チェック
- 衣類・指輪など個人特定できる付属品探索

→イラク日本外交官射殺事件(2003年)では付属品が身元確認の決め手になった

DNA鑑定による遺体確認

- 遺体の組織と対照試料を付き合わせる法医学的検査
- 時間がかかる
- 対照試料としては口腔粘膜スミア、臍の緒などが親子鑑定に用いられるが、被災者特定には「毛根の付いた毛髪」が一般的

邦人旅行者銃撃事件

＜症例＞男性、25才、元会社員

- 単独アフリカ旅行を計画、ネットで旅行社とホテルを予約
- ナイロビ市内危険地域に投宿、正午頃、ホテルの玄関前で襲われ、バッグを強奪され、胸を撃たれた
- 公立病院に運ばれ、医務官が駆けつけた
- 意識あり、口から血の泡を吹いていた
- 旅券と保険証を確認、私立病院に転送
- 私立ナイロビ病院で血気胸の診断
- 胸腔ドレナージで血性排液1リットル

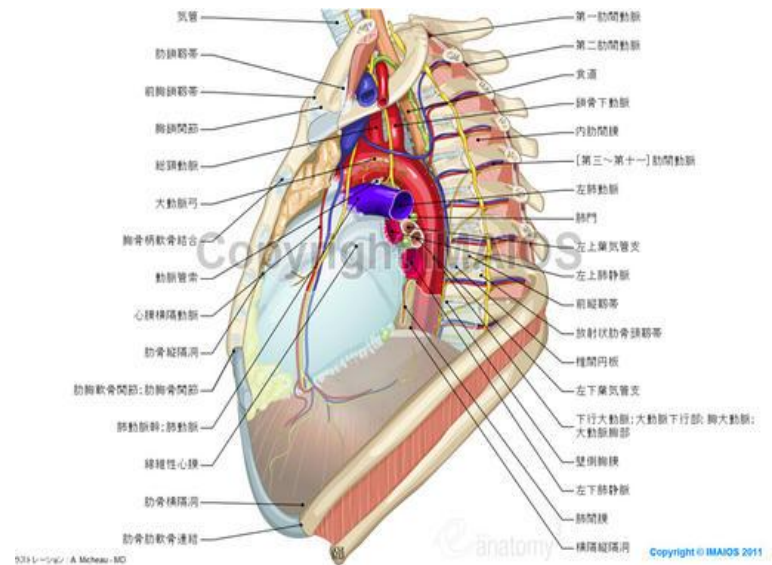


邦人男性銃撃事件

- 弾丸は左側第7肋骨を砕いて肺を貫通し、胸骨柄から抜け出た
- 酸素投与とドレナージ
入院4日間で回復、帰国

<総括>

- ネット情報は信頼するな
- 旅券と保険証を他の貴重品と別に所持して助かった
- 旅行者保険会社の対応は遅い、ケニアの病院は金次第で動く



急性ストレス障害

(Acute Stress Disorder)

衝撃体験のすぐ後、そのストレス反応として表れる様々な症状

<原因> 不安感からくるストレス

<予防・治療法> 明確な情報、それに対する的確な措置、守られている・孤立していないという安心感

<経過> 1ヶ月くらいで徐々に治っていくのが普通、遷延すればPTSD(外傷後ストレス障害)

PTSD

(Post-traumatic Stress Disorder)

心の傷のため、その後の心や身体に変調を来すもの(心の後遺症)

- 再体験(フラッシュ・バック)
 - 回避: 特定の場所や事物を避ける
 - 過覚醒: 小さな事に敏感になり、おびえる
- **デブリーフィング(事後報告の聴取)はするな!**
- すべての被災者に出現する訳ではない
- 曝露時間の長さ、距離と関係する

Psychological First Aid (PFA)

心理的応急処置

被害者を援助するための人道的、支持的アプローチ。デブリーフィングに代わるもの。

- ニーズや心配事の確認
- 水・食料など必需品の援助
- 無理強いせず、傾聴する
- 安心させ、落ち着かせる
- 情報・公共サービスの提供
- さらなる危害からの保証

良好なコミュニケーション 良いやり方、話し方

- 静かな場所で話す
- 被害者のそばに居てあげる
- 話をよく聞く、うなづく、相槌を打つ
- 忍耐強く冷静でいる
- 知っている事、知らない事を正直に話す
- プライバシーを尊重し、秘密を守る
- 相手の強さ、つらさを認める

良好なコミュニケーション してはならない事

- 無理に話させない
- 話をさえぎらない、急がせない
- 意見を述べない、ただ聞くようにする
- (原則として)相手の身体に触れない
- 他の被害者から聞いた話をしない
- できない約束や気休めは言わない
- 相手の問題を全部一度に解決しようとししない
- 「助かって良かったではないですか」は禁句

精神科カウンセリング

今回のテロ事件に関し、精神的な問題でお悩みの方は、在仏大メンタルヘルス相談医である石井吉秋医務官が対応いたします

連絡窓口：在ケニア大使館、宮村治男医務官

E-mail : haruo.miyamura@mofa.go.jp

Cell-phone : 0722-514 096

